

完了報告書

記入年月日 2026年 3月 30日

採択団体名 西豊田学区地域支え合い体制づくり実行委員会 plus



■事業概要

基本情報	
事業名	「楽しく主体的で共に」で広がる住民主体の地域づくり ～参加体験型避難所運営訓練・生活体験「リアルHUG」の実践モデルの構築～
事業内容	事業内容①: 能登避難所実態調査 事業内容②: リアルHUG実践訓練及びシンポジウムの実施
事業背景	地域の防災訓練は、内容が前年踏襲でマンネリ化し、参加者も固定してその数も少ない地域が多い。参加者が多い地域もあるが、その場合は見学や部分的な参加にとどまり訓練実施が目的化している場合が多い。自主防災組織役員が避難所の点検を行う地域もあるが、避難所となる体育館等での住民が参加する本格的な運営訓練や実際に即した避難所生活体験は全国的にもほとんど行われていない実態がある。「訓練だけで全てを対応できないが、訓練なくして対応できない」と言われるが、避難所運営や生活体験にも当てはまる格言であり平時から災害に備え住民主体で取り組む必要がある。
コミュニティ 設立の経緯	静岡市駿河区西豊田学区において静岡市障害者協会が主催した『障がい者の防災を考える宿泊型防災訓練』に参加・協力した地域住民及び保健福祉専門職が、「この活動をイベントで終わらせたらもったいない」の声を受け、2016年に実行委員会が発足した。コロナ禍3年間は地域防災訓練が中止又は規模縮小の中、「災害はコロナを待ってはくれない」を共通認識に静岡市と連携して感染症対応の避難所開設訓練を実施した。これまでの10年間で積み上げた活動実績と行政(静岡市・静岡県)、社協(静岡市・静岡県)、各災害支援団体、企業との多様な連携強化した実行委員会 plus となった。
本事業に関する過去の 取り組み内容	・活動テーマは災害時に自助には制限があり、支援が必要な要配慮者支援である。ただ、その支援が災害時に機能するよう、平常時に住民同士が支え合える地域づくりを目標に活動展開をしている。各年度で活動内容は異なるものの、基盤として地域住民を対象に「事前研修」「防災ワーク」「実践訓練」「要配慮者支援シンポジウム」を実施してきた。 ・新規事業として、令和6年度から「防災かまどベンチ」づくりを行っており、令和6年度に学区指定避難所である小学校と中学校に2基、令和7年度は高齢者・障がい者・児童福祉施設に各1基の合計5基のかまどベンチを学区内に製作した。 ・さらに、地域防災活動に極端に参加が少ない若い親世代を主対象に、令和6年度から「親子避難所キャンプ」を計4回実施した。特に、令和7年10月と3月には静岡県危機情報課と連携し、「ふじのくにジュニア防災士養成講座」を避難所キャンプに組み込んで実施した。
事業体制	・実行委員会: 事業内容①②③④の企画・運営 全員(26人) ・静岡市駿河区地域総務課地域防災係: 事業内容②避難所設置訓練の参加と資機材提供 2名 ・静岡市危機管理局危機管理課情報施設係: 事業内容②静岡市トイレカー配置 2名 ・静岡県地震防災センター: 事業内容②ブース参加(VR体験等)1名 // : 事業内容③会場使用許可、開催日の会場設営 1名 ・静岡県社会福祉協議会: 事業内容②静岡 DWAT 参加調整と防災ワークシヨップ担当 2名 ・静岡市社会福祉協議会: 事業内容②避難所設置訓練の参加、資機材提供 2名 ・静岡大学学生防災ネットワーク: 事業内容②リアル HUG 参加、子ども向け防災ワーク担当 7名 ・駿援隊: 事業内容②リアル HUG 参加、ブース参加(活動紹介)9名 ・お産ラボ防災部: 事業内容②リアル HUG 参加、ブース参加(活動紹介)1名 ・藤枝女性防災ネットワーク: 事業内容②リアル HUG 参加、ブース参加(防災グッズ等)1名 ・やらざあ静岡: 事業内容②リアル HUG 参加、ブース参加(ペット避難)2名 ・新海豊店: 事業内容②リアル HUG 参加、災害用置提供、ブース参加(活動紹介)2名 ・イワタニ首都圏静岡営業所: 事業内容②リアル HUG 参加、ブース参加(ガス発電機等)2名 ・明治安田静岡東営業所: 事業内容②リアル HUG 参加、ブース参加(血管年齢測定等)4名

全体スケジュール	<p><9月下旬></p> <ul style="list-style-type: none"> ・モデル事業採択を受け実行委員会定例会において事業説明を行う(定例会は毎月第4金曜日) ・実行委員会 Plus として事業への連携・協力を依頼する機関等と打合せ・参加依頼 <p><10月上旬～11月中旬></p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難所運営実態調査の訪問者の選定と実施に向けた連絡・調整 ・リアルHUG実施に向けた内容・方法の検討、案内チラシの作成・配布 <p><11月下旬></p> <ul style="list-style-type: none"> ・能登地震避難所運営実態調査の実施 <p><12月上旬></p> <ul style="list-style-type: none"> ・リアルHUG実施をメインとする宿泊型防災訓練の実施 <p><12月中旬～1月上旬></p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉防災シンポジウムの開催準備、案内チラシの作成・配布 <p><1月中旬></p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉防災シンポジウムの開催 <p><1月下旬～2月下旬></p> <ul style="list-style-type: none"> ・成果報告書の作成
事業目標・事業成果	
事業目標全般 (教育提供者側)	<ul style="list-style-type: none"> ■能登半島地震で避難所運営を担ったリーダー・支援者、障害施設の利用者・職員に聞き取り調査を実施、その対応実態・課題を把握する ■参加者が主体的に動き、考える参加体験型の避難所運営と生活体験を組み合わせたリアルHUGを実施する ■基調講演、避難所運営実践報告、リアル HUG 参加者によるシンポジウムを内容とする福祉防災シンポジウムを開催する。リアル HUG を多角的に検証し、その成果・課題から実践モデルを構築する
事業成果全般 (教育提供者)	<ul style="list-style-type: none"> ■地域の防災訓練が実施することを目的としたイベントになりがちで、主催側が仕切り参加者が客体化する傾向が強い中、参加者が「楽しく、主体的に、共に」を活動指針とする参加体験型の避難所運営訓練・生活体験「リアル HUG」の実践モデルを開発した ■これまでの活動実績に加え、本事業で連携・協力する機関との関係性を活かしたさらなる活動の継続や発展の土台となる連携体制を構築し、地域で住民同士が支え合えるボトムアップ型の地域共生社会づくりに向けた防災教育モデルを構築した
事業目標全般 (参加者側)	<ul style="list-style-type: none"> ■これまでの活動実績に加え、能登避難所実態調査に基づく知見を活かしたリアル HUG において参加者自らが運営役や避難者役を担い、その活動体験により実践的な避難所運営や生活体験を学ぶ ■リアル HUG 参加者によるシンポジウムを含め、基調講演と避難所運営実践報告を組み込んだ福祉防災シンポジウムに参加することで、防災・減災に関する知識や理解が進みリアル HUG 実践の意義や方法を学ぶ
事業成果全般 (参加者側)	<ul style="list-style-type: none"> ■リアル HUG に先立ち、参加者全員で避難所設営訓練を実施し、その後に参加者が運営役と避難者役に分かれてリアル HUG を実施し、参加者は視察者を含め 182 人であった ■オンラインを含め 155 人が参加した福祉防災シンポジウムは、基調講演、実践報告とそれぞれの学びがあった。 ■リアル HUG シンポジウムにより多くの住民がリアル HUG を体験し、活動の広がりが必要生を共有することができた。
展開できる 知見やノウハウ	<p>リアルHUG実践の集大成として実践モデルを開発することができ、他地域での広がりが見られている。具体的にはリアルHUGに参加した静岡大学学生防災ネットワークのメンバーが、簡易版リアルHUGを学内及び他大学で実施したが、指示カード情報提供や活動時のサポートをすでに実施した。他地域の自治会からの問い合わせも出始めている。リアルHUGに限らず、インクルーシブ防災活動の10年間の実績があり、停滞する地域防災活動や進まない地域での要配慮者支援体制づくりについてのノウハウが豊富にあり、親子避難所キャンプや防災かまどベンチづくりについても助言や実際の支援ができる。</p>

<p>コミュニティ防災教育の重要な観点</p>	<p>活動のポイントは3つある。まず、災害時には余裕がなく厳しい状況で動かないとならないが、平常時の防災活動は「楽しい」こと。楽しいから参加したくなり、継続し発展していける。次に、地域防災訓練など参加者が客体化し参加しても残らない・次に続かない傾向が強い中、参加者が「主体的に」参加体験できること。そして、活動を通して参加者同士が「共に」交流しつながること。そのつながりが普段からの地域での生活に活かされることで地域の福祉力や共助力が向上する。また、能登避難所調査で多くのことを学んだが、「避難者はゲストではなくキャスト」であるという避難所リーダーの言葉を用いて、リアルHUGにおいて「参加者はゲストではなくキャスト」を掲げ「楽しく、主体的に、共に」の参加体験型の活動を実践することができた。</p>
<p>残課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■実際の避難所に近い「リアルHUG体験モデル」を開発し、その課題である個々の活動を俯瞰的・教育的に捉える「リアルHUG教育モデル」構築したが、実際に教育モデルを実施してその内容や方法を検証する必要がある ■静岡市内で最大の人口のある学区であり(人口2万人超)、まだ西豊田インクルーシブ防災活動が学区内に浸透しているとは言い難いため、特に子どもや親子を主対象とする活動展開や学区連合自治会等との連携により地域に根ざした活動を展開する ■10年間の活動実績やリアルHUG体験モデルなど、他地域へ活動を横展開していくことにも力を入れていく

■事業内容

事業内容① 能登避難所実態調査		
事業内容①目標 (提供者側)	<ul style="list-style-type: none"> ■能登半島地震において珠洲市正院小学校避難所の運営を担ったリーダーから聞き取り調査を行い、その運営実態を把握・考察しリアル HUG 実践に活かす ■能登半島地震において七尾市矢田郷コミュニティセンター避難所の運営を担ったリーダーから聞き取り調査を行い、その運営実態を把握・考察しリアル HUG 実践に活かす 	
事業内容①目標 (参加者側)	<ul style="list-style-type: none"> ■実践的なリアル HUG 実施に向け、避難所実態調査の結果を反映させて運営者役を担う参加者が実際の避難所運営に近い体験ができるようにする ■実践的なリアル HUG 実施に向け、避難所実態調査の結果を反映させて避難者役を担う参加者が実際の避難所運営に近い体験ができるようにする 	
事業内容① 正院小学校避難所運営リーダー聞き取り調査 (実施日: 2025/11/29)	<p>■具体的な取り組み内容 元正院小学校教頭先生で、現在は正院公民館館長の小町康夫氏は正院小学校避難所の運営リーダーを担った。その実体験に基づく避難所運営の対応や課題について1時間ほどのプレゼンがあり、その後調査メンバーから質疑応答を行った。</p> <p>■成果(提供者) 避難所運営を学びたい様々な団体等があり、小町氏はそのためにパワーポイントで資料を1時間ほどにまとめてあったが、あまりにも多くの示唆に富む説明であったので避難所運営の対応や課題について掘り下げて聞くことができた。約束の時間超過その後3時間ほど質疑応答が続いた。</p>	
事業内容① 矢田郷コミュニティセンター避難所運営リーダー聞き取り調査 (実施日: 2025/11/30)	<p>■具体的な取り組み内容 発災当日、七尾市矢田郷地区コミュニティセンターに車中泊を含め1000人を超える避難者が集まった。防災知識や経験がまったくない避難所リーダー関軒氏から避難所運営のプレゼン1時間(11/30)と翌日には質疑応答を行った。</p> <p>■成果(提供者) 関軒氏も各地での教訓を伝える講演が多く、避難所運営や対応について非常にわかりやすいプレゼン資料とユーモアたっぷりの語り口でリアルは避難所運営を学ぶことができた。移動のため1時間という制限が合ったが、翌日のお昼に時間を取って頂き、その質疑で考察を深められた。</p>	
事業内容①を実施する中で発生した課題や失敗点	<p>■発生した課題や失敗点 珠洲市でも被災状況は様々であり、避難所運営がうまく進まない指定避難所や自主避難所などが多かった中、前年の地震の教訓から平常に運営体制を構築していた正院地区はレアケースである。その学びは大きいですが、他地域の教訓を活かせるかどうかは大きな課題。 1/2に水・食料が届くも全く足りない、仮設トイレやトイレカーが届くも段差で高齢者などが使えない・流す水がない、赤ちゃんの泣き声が気になるなど、避難所で実際に起こったことをベースにどのようにリアル HUGに取り入れるか。問題が多すぎて整理が難しい。</p> <p>■乗り越えた方法 誰一人取り残さない避難所運営を目指す上で正院小学校での取り組みが今後の避難所運営の良い例となる。「避難者はゲストでなくキャストである」ことを実践し、子どもも配膳や壁新聞を作るなどできることがあり、その力を引き出すことをリアル HUG 実践で取り入れた。 関軒氏のリーダーシップ力や現場対応力は優れたものがあるが、まちづくり協議会事務局長として普段から多くの地域資源(人・モノ・団体・行政等)との豊富な関係性が断水や物資不足の災害時に活かしたという。人を惹きつける力や信頼は短期間で身につかないが、それに近づけるようリアル HUG 実践で心掛けた。</p>	

<p>事業内容①を実施する上で工夫した点</p>	<p>実施内容は今回の実態調査を代表するものであり、その他にも正院小学校避難所で自ら被災し避難所生活をするものの避難所運営を支えた地域住民(消防団員、民生委員、障がい施設職員、行政職員)や障がい者 GH の利用者・支援者にも聞き取り調査を行うことができたが、何よりも被災地に立ち、そこから感じることや考えることがとても重要である。被災者との直接的な関係性がないと調査対象者の選定が難しい。珠洲市の調査では何度か直接関わった福祉事業所職員が対象者の選定・調整をコーディネートして下さり、短い期間にも関わらず実現できた。七尾市関軒氏とは接点がなかったが関わりのある人がつないでくれ、幸いにも二つ返事で応じて頂いた。</p>	
<p>事業内容① 残課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・リアル HUG 実践訓練にこの調査結果をどう活かすのか。実際の災害と平時の訓練では状況が大きく異なるため一般化するのは難しい ・災害時に避難所運営が機能するには、平常時にこそ運営組織体制づくりや避難所運営訓練が欠かせないが地域防災訓練ではほとんどの地域で行われていない中、リアル HUG 実践でどこまでリアルに迫られるかが残課題 	
<p>事業内容② リアル HUG 実践訓練及びシンポジウムの実施</p>		
<p>事業内容②目標 (提供者側)</p>	<p>事業内容②をとおした目標を箇条書きで記載 ※定量、定性的に、主体にわけて具体的に記載する (例)防災教育の提供者と、参加者にわけて記載をお願いします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■リアルHUGの設定がライフライン停止・避難所受付を終えた避難所生活初期のため、リアルHUG前に避難所設営のレイアウトづくりを参加者全員で行う ■リアルHUGで用いる指示カードにより運営役と避難者役がそれぞれの役割を実体験することで避難所運営やその生活を理解する ■シンポジウム第3部で、リアル HUG 実践訓練で運営役と避難者役を担った 4 名のシンポジストの思いや経験を基に、リアル HUG の意義や課題を検証する。 	
<p>事業内容②目標 (参加者側)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■参加者主体でリアル HUG 実施前に避難所設営を参加者全員で行うことで、各避難所班や福祉避難スペースなど避難所開設・運営のレイアウト作りを体験する ■用意した避難所で起こりうる問題や要望等の指示カードを用いて、リアルは避難所運営や避難所生活を参加者が体験する ■シンポジウム第3部の運営役と避難者役の発題やコーディネーターとのやり取り及び質疑により、参加者がリアルHUGの意義や方法を学ぶ 	
<p>事業内容② リアルHUG実践訓練 (実施日: 2025/12/6)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■具体的な取り組み内容 <p>リアル HUG 実施に先立ち、リアル HUG の説明と活動の進め方について説明を行い、運営役と避難者役を募りリアル HUG が開始された。混雑と混乱の中で指示カードに基づく避難所がリアルに再現された。途中、畳が届き、配給の水配布で終了。その後は剣道場に集まり、活動振り返りを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■成果(参加者) <p>視察者を含め、182 人の活動参加者であった。要配慮者の参加者は、放課後デイサービス「スイッチ」の利用児 18 人と支援者 4 人、障害者グループホーム「なら〜ら」の利用者 11 人と支援者 3 人が参加し、他に車イス利用者 3 名の参加があった。ライフライン停止での暗い中での活動から始まったが、事故もなく想定通り混乱しつつもリアルは避難所運営体験となった。</p>	
<p>事業内容② リアル HUG シンポジウム (実施日: 2026/1/18)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■具体的な取り組み内容 <p>リアル HUG 実践訓練参加者で、運営役(本部長・保健衛生班)と避難者役(高齢者・障がい者)をシンポジストに、実行委員会代表がコーディネーターでシンポジウムを実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■成果(参加者) <p>当日の会場参加者が 108 名、オンライン参加者が 47 名と合計 155 名が参加し(今吾、録画した映像はアーカイブ化して YouTube で配信予定)、告知期間が身近にも関わらず多くの参加者があった。基調講演、実践報告とそれぞれの学びがあったが、リアル HUG シンポジウムにより多くの住民がリアル HUG を体験し、活動の広がりが必要を共有することができた。</p>	

<p>事業内容②を実施する中で発生した課題や失敗点</p>	<p>■発生した課題や失敗点 リアルHUGでは、混雑・混乱の避難所体験や自分の対応から得られるものは大きいですが、全体を俯瞰できず自分以外でどう動き、どう対応したのかわからず教育効果に課題が残った。またシンポジウムでは、リアルHUG体験者による個々の想いや学びを基に参加体験型の避難所運営訓練の意義や課題は示されたが、登壇者は参加者の一部でしかなく、より幅広い参加者の声を拾う必要がある。</p> <p>■乗り越えた方法 全体を俯瞰する教育効果のあるリアルHUGの課題は残ったが、災害現場で支援経験が豊富な進行支援プランナーの指示カードへの臨機応変な対応があり、運営役や避難者役とも個々の参加者への教育効果は高く実施できた。シンポジウムでは、コーディネーターがシンポジストの体験を通した戸惑や想いに焦点を当てて総花的な内容にならないように進化した。</p>
<p>事業内容②を実施する上で工夫した点</p>	<p>リアルHUG実施前に、参加者全員で避難所レイアウトに基づく避難所開設訓練を実施することで、活動指針である「楽しく、主体的に、共に」を体験し、その後のリアルHUG実践に参加意欲を高める工夫を行った。また、リアルHUG実施の前にその趣旨や方法を説明する時間を設け、参加者が自ら運営役や避難者役を選んで実施できるようにした。シンポジウムにおいては、第1部に基調講演、第2部に避難所運営実践報告を組み込むことで、多様なニーズや意識のある参加者に対応した。</p>
<p>事業内容② 残課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者が俯瞰的に状況把握し、教育効果の高い「リアルHUG教育モデル」の開発 ・開発した「リアルHUG教育モデル」に基づく実践訓練の実施 ・リアルHUGを中核に西豊田インクルーシブ防災活動の学区内の浸透と他地域への横展開により、災害時に地域防災活動が機能するよう、平常時からの住民同士が支え合える地域づくりモデルの開発・展開

■参考資料

■事業内容①能登地震避難所運営実態調査スケジュール

西豊田学区地域支え合い体制づくり実行委員会		2025/11/23
能登地震避難所運営実態調査		
■日程：2025年11月28日（金）～12月1日（月）		
■訪問先：石川県珠洲市		
<ul style="list-style-type: none"> > 29日（土）午後：13時～正院公民館（正院22-5-1）で小町館長のプレゼン > 30日（日）午前：9:30～11:00 すず樺グループホーム（上戸町北1-1） 午後：関野さん 七尾市矢田郷コミュニティセンター（本府中町30番地） 16時～避難所運営5人との懇談@正院公民館 > 1日（月）午前：調整中 		
<ul style="list-style-type: none"> *日本カーシェアリング協会七尾拠点の視察あり *時間があれば災害支援ナース山中さん（能登町）にご挨拶 *今回は馬籠町の訪問はなし 		<ul style="list-style-type: none"> 小町館長 瓶子明人さん 瓶子隼子さん 瀬戸裕起子さん 西茂美さん
■参加者：江原、吉田、増本、明治安田、もう1人		
■旅程（案）		
<集合> 9:30 新幹線改札前		
28日（金）静岡 9:57こだま706号⇒東京 11:48かがやき527号⇒金沢 14:24		
宿泊：アパホテル金沢駅前（和朝食付き）		
アパホテル（金沢駅前） - 宿泊予約は<じゃらん.net>		
29日（土）8:30トヨタレンタカー：ミニバン ⇒珠洲市へ移動・活動（調整中）		
13:00～ 正院公民館		
宿泊：緑光旅館（2食付き）		
緑光旅館 - 宿泊予約は<じゃらん.net>		
30日（日）9:30～11:00 すず樺 GH		
午後（調整）16時～ 正院公民館で懇談		
宿泊：真脇ゴーレジャーレ（2食付）		
真脇温泉の宿 真脇ゴーレジャーレ - 宿泊予約は<じゃらん.net>		
1日（月）午前（調整中）		
星頃珠洲発⇒金沢 17:57かがやき514号⇒東京 21:06ひかり665号⇒静岡 22:02		
■調査前に必ず第34回FNSドキュメンタリー大賞ノミネート「正院になれん」視聴		
*美容師で消防団員の瓶子明人さんを中心に能登地震後1年の生活を追った番組		

■能登地震避難所調査写真①:小町康夫館長(正院公民館)



■能登半島地震避難場実態調査③：関軒明宏氏(矢田郷地区コミュニティセンター)



■能登半島地震避難所運営実態調査④：正院地区住民(正院公民館)



■事業内容②:リアルHUG 実践訓練及びシンポジウムの実施

■リアル HUG 案内チラシ

令和7年度 西豊田インクルーシブ防災活動 実践訓練

リアルHUG・座談会・宿泊体験
避難所の要支援者支援

参加無料

2025 12.6 (土) 15:00 ~ 12/7 08:00

会場: 静岡市 豊田中学校 体育館
静岡市駿河区豊田1丁目3-1

駐車場ありですができるだけ早い合いで来てください。(車中泊可能)
持ち物: 徒歩や車で避難し指定避難所へ泊るイメージです。他の参加者に参考になりそうなものは大歓迎です。

リアルHUG
避難所の設営から初動までを体験します。車上を越えてリアルに【お題】を出しながら進める訓練です。実際の避難所での「声」を感じて自身の備えに繋がります。運営者・避難者双方のリアルを感じてください。

車座座談会
テーマを決めた座談会。注目は就寝時間になってからの【DEP(大人)の奮闘】これは参加者同士で普段話さない話題が満載(過去の経験より)

ワークショップ
全場展開中の【ぽんすいHUR! E】や、各団体の展示物と様々な形で防災を感じることが出来ます。

避難所宿泊体験
自分達の備えを確認できる最高の場所。実際の指定避難所で一晩過ごすことで何を体験できるか...それが皆様の【新しい】備えになることでしょう。

※リアルHUG: 防災訓練や訓練場で行われる避難所運営ゲーム(HUG)のリアル再現したもの。カード(紙)では解らないリアルな避難所が営まれる地域でお役に立てるものと想います。

主催: 西豊田学区地域支え合い体制づくり実行委員会
後援: 静岡市、静岡市障害者協会、明治安田
お問合せ: 静岡県立大学短期大学部 江原ゼミ
Tel/Fax: 054-202-2685 | ebara@u-shizuoka-ken.ac.jp

参加申し込み ▶ QRコード

詳しくは(X)にて▶ QRコード
#田 Twitter

■リアル HUG・座談会・宿泊体験のしおり

災害時にも誰一人取り残さない地域づくり
【西豊田インクルーシブ防災活動】

避難者は**ゲスト**ではなく**キャスト**です!

リアルHUG・座談会・宿泊体験
避難所の要配慮者支援
避難所の運営や生活を体験しよう!

〈参加のしおり〉

日時 2025/12/6 (土) 15:00~翌7日 (日) 8:00

会場 静岡市立豊田中学校 (駿河区豊田 1-3-1)

主催 西豊田学区地域支え合い体制づくり実行委員会
後援 静岡市 静岡市障害者協会 明治安田

◆◆◆ 活動参加にあたって ◆◆◆

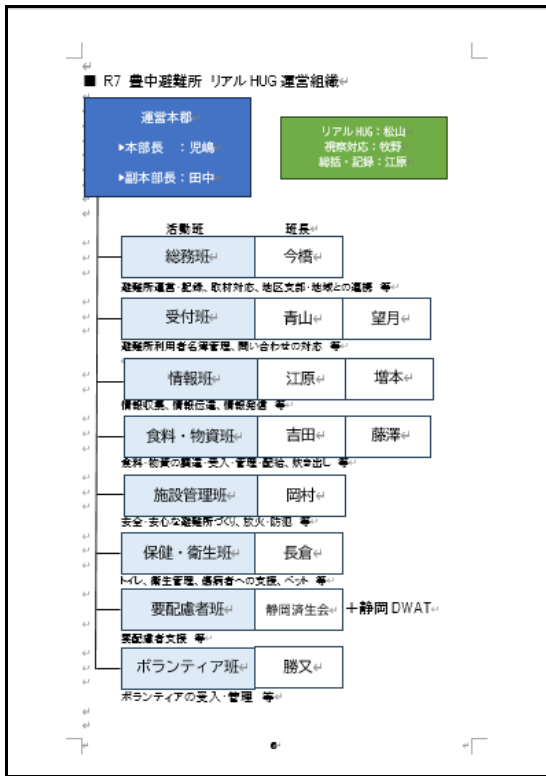
西豊田インクルーシブ防災活動の参加
~ 3つの活動指針 ~

① **楽しく**
災害時の避難所(特に開設時や初期)は混乱・混雑し余裕が全くなりません。災害規模が大きければ長期の避難所生活を強いられませんが、平時の訓練こそ非日常を想定して活動を楽しみましょう! 楽しくなければ続きません

② **主体的に**
誰かの指示がないと動けない、何をしたいのかわからずじっとしている。そんな避難所あるあるにならないよう、自ら積極的に動きましょう! それで失敗したって OK で、失敗から多くを学べます

③ **共に**
避難所は老若男女、障がい、性的マイノリティ、外国人など様々な人が集まります。特に要配慮者は自助に制限が大きく取り残されがちになります。この訓練では多様な人や世代が共に支え合い助け合うところや態度を見に付けましょう!

1



■静岡新聞 2025/12/7

1泊2日で宿泊型防災訓練

静岡市駿河区の地域住民らでつくる「西豊田学区地域支援会」は6日から1泊2日の日程で、災害時の避難所運営や避難生活を体験する「宿泊型防災訓練」を豊田中で行った。障害者を含む約90人が参加し、避難所で支え合いながら安心して

駿河区 90人参加 災害時意識高める

「西豊田学区地域支援会」は6日から1泊2日の日程で、災害時の避難所運営や避難生活を体験する「宿泊型防災訓練」を豊田中で行った。障害者を含む約90人が参加し、避難所で支え合いながら安心して

過ごすための備えを学んだ。
体が不自由な人のために

簡易ベッドの組み立て方を学ぶ参加者。静岡市駿河区の豊田中。

福祉避難スペースを設営。テントと簡易ベッドで間仕切りを整え、過ごしやすい空間を確保した。

カードに記した「お題」に沿って、避難時の対応を模擬体験できるリアルHUG（避難所運営訓練・生活体験）では、避難者役や支援者役に分かれ、体調不良者や要配慮者への対応の仕方などを学んだ。夜は各自が持参した寝袋や布団を使って就寝し、避難所の環境を体感した。

宿泊体験に臨んだ藤枝災害支援ネットワークの吉田令子代表は「実体験を通じて避難所の生活を知ること、新たな発見や備えにつながる」と話した。

■NHK 静岡ニュース 2025/12/7



■リアル HUG の様子



準備作業：床保護ブルーシート張り



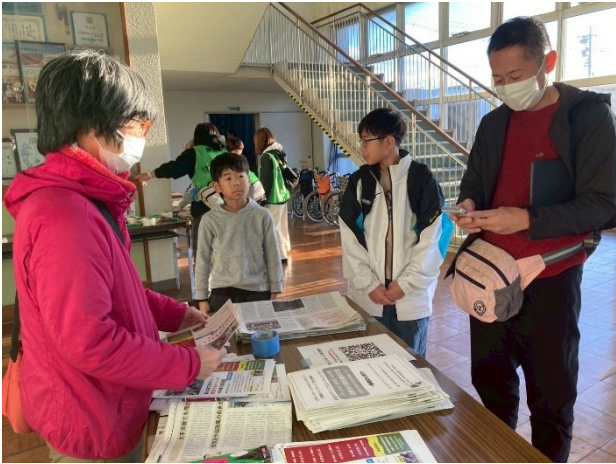
実行委員・協力者最終打ち合わせ



資機材搬入（静岡市間仕切りテント）



静岡市トイレカー設置



参加者順次受付



はじまりの会：全体オリエンテーション



避難所設営訓練：簡易ベッドの組み立て



福祉避難スペースの設営



地域の高齢者も参加



リアルHUGオリエンテーション



リアルHUG：施設管理班の対応



リアルHUG：情報カードの受け取り



リアルHUG：要配慮者班の対応



リアルHUG：情報班の対応



リアルHUG：災害用畳の搬入



リアルHUG：受付への対応



リアル HUG：施設管理班の対応



リアル HUG：運営本部と総務班の対応



リアル HUG 振り返り：牧野氏（進行）



リアル HUG 振り返り：松山氏コメント



リアル HUG 振り返り：総務班長



リアル HUG 振り返り：静岡 DWAT



リアルHUG 振り返り：静岡副市長コメント



リアルHUG 振り返り：岩田教授コメント

■福祉防災シンポジウム案内チラシ

BCP 地域防災 災害関連死 福祉 要配慮者 避難者はゲストではなく【キャスト】である 現場合わせ 生きるためにできること 次世代

福祉防災シンポジウム 10年の実績

あしあと

指定避難所を【福祉的避難所】を目指して検証してきた
自然災害が進化する中、人の意識が追い付かない現状を探る

2026 1/18日 静岡県地震防災センター ないふるホール
13:00-16:30 静岡県静岡市東区駒形通5丁目9番1号
駐車場に限りがありますので公共交通機関をご利用ください。(裏面参照)

13:05 基調講演 藤原 勝幸 静岡副市長
14:15 避難所運営の現場から～ 野村 浩一 静岡県立大学 社会福祉学部 准教授
15:35 シンポジウム 責任の所在 野村 浩一

振り返す課題と防災の本質 避難所運営の現場から～ 野村 浩一 准教授の経験 リアルHUGの効果と課題

申込方法 webフォームまたは裏面の用紙(FAX)よりお申込みください。
https://forms.gle/hJiAHM4C64mjQYg46

参加費用 **無料**

申込切 1/15 (木)

定員 150人 (先着順) (定員になり次第締め切ります)

主催：西豊田学区地域支え合い体制づくり実行委員会
後援：静岡市(予定)

配慮・支障が必要な方は申込時にご相談ください

福祉防災シンポジウム

西豊田学区地域支え合い体制づくり実行委員会 宛
FAXは下記用紙に記入の上送信してください。
電子メールは下記用紙を参考に情報を送信ください。(添付可)
FAX: 054-202-2685
電子メール: ebara@u-shizuoka-ken.ac.jp
WEBフォーム: https://forms.gle/hJiAHM4C64mjQYg46

申込フォーム

ふりがな	氏名	年代
	□ 10歳代 □ 50～59歳	□ 20～29歳 □ 60～69歳
	□ 30～39歳 □ 70歳以上	□ 40～49歳
電話番号(携帯/自宅)	参加方法	
	□ 会場参加 □ オンライン参加 (zoom)	
メールアドレス ※オンライン参加案内のみ	連絡先	
	連絡先	

配慮・支障 要 (ご要望を記入ください) 不要

バスでの案内

しずてつジャストライン
●中部国道線・丸子線・丸子小坂線・牧ヶ谷線
東新田下川原線「静岡駅前(7番)」
本通10Tバス下車 徒歩5分
●西部循環駒形回り線「静岡駅前(8番A)」
駒形5丁目バス下車 徒歩2分

東名での案内 要支援者優先
東名静岡インターを降り「インター通り」を北進、国道1号「南安倍」交差点を右折、2つ目信号の「清岡町」交差点を左折、「しあわせ通り」の左側

福祉防災に関して感じている事などありましたらご記入ください

※ご記入いただいた個人情報は、上記の利用目的のみに使用し、第三者に提供することはありません。※電話でのお申し込みは受け付けておりません

能登半島地震での避難所運営の
経験を語る関軒事務局長 静岡
市葵区の県地震防災センター



1/2 食事提供2回

能登地震避難所課題を共有

葵区で福祉防災シンポジウム

静岡市の西豊田学区地域
支え合い体制づくり実行委
員会は18日、福祉防災シン
ポジウムを同市葵区の県地
震防災センターで開いた。
石川県七尾市の矢田郷地区
まちづくり協議会の関軒明
宏事務局長らが登壇し、能
登半島地震の避難所運営を
巡る課題などを語った。

ニティセンターには、発災
当日から千人以上の住民が
着の身着のまま集まり、
「受付を設ける暇もなかっ
た」と振り返った。半数以
上が高齢者で、館内の多目
的トイレは車椅子利用者な
どの要配慮者専用にして対
応。飲料水は多く届いた一
方、トイレを流したり体を
拭いたりする生活用水の確
保に苦労したとした。

関軒事務局長は、避難所
となった矢田郷地区コミュニ

避難所運営で大切にしたい
ポイントには避難者に寄り
添う姿勢や行政職員へのサ
ポートを挙げた。ただ、開
設から1週間ほどで自身や
運営スタッフが限界を迎
え、「遠慮しない、頑張り
すぎない、抱え込まないこ
とを心がけるようになっ
た」とメンタルケアの重要
性を指摘した。

(社会部・吉田史弥)

■福祉防災シンポジウムの様子



第 1 部：基調講演 室崎益輝先生



第 2 部：避難所運営実践報告 関軒明宏氏



リアルHUG シンポジウム



会場受付



開会挨拶



タイムキーパー



電動車椅子の宇佐美氏を壇上上げる